

椎茸普及指導情報 第4号

【H19.2.8】

本格的なしいたけシーズンに入りました。皆さんほだ起こしの残り、展開、玉切り、駒打ち、採取と忙しくなっていることと思います。

先に（1月30日）にきのこの研究所で開催された発表会で6つの発表がありました。今回は、その中の乾椎茸関係2点について、要旨を簡単に??取りまとめましたので、次のとおりご紹介します。詳細を知りたい方はご連絡いただければ、個別に回答いたします。

1 乾しいたけ関係

（1）「きのこの栽培実証試験」 - 中温性品種の栽培環境と発生状況について -

～目的～

暖冬傾向にある中、中温性品種系統が増加している。そこで県下4地域で栽培試験を行った。

～結果～

中温性種菌の系統には単収の高い品種系統がある。一般に分散発生するため、雇用労力の削減が可能である。

山地型（標高が高い）気候区では発生が春の一時期に集中する発生型のため、分散型のメリットが生かされなかった。山地型気候区は気温も低いため今後とも低温性菌の利用を図ることもひとつの方法。

発生の時期が低温菌より暖かい時期の発生になるため、害虫、害菌による被害や乾燥製品への昆虫類の混入に対する注意が必要である。

－試験地別、年別発生量－

単位：kg / m³

地域 (標高)	品種	H15	H16	H17	合計
三重 (150m)	ゆう次郎	10	7	1	18
	こう太郎	7	7	1	15
	N904	4	7	5	15
国東 (50m)	ゆう次郎	12	9	2	23
	こう太郎	9	9	3	21
	N904	4	8	6	18
庄内 (620m)	ゆう次郎	8	5	1	15
	こう太郎	7	5	2	14
	N904	3	7	4	13
佐伯 (90m)	ゆう次郎	2	8	3	23
	こう太郎	10	8	2	20
	N904	4	5	5	14

注：小数点以下は四捨五入してます。

～普及指導員から～

国東地域（50m）は温暖であり、庄内（620m）に比べると中温菌のメリットが最大に行かされている気がします。

逆に標高の高い地域はどうかと思われませんが、3年間の発生量は庄内でも1世代あたりの県標準発生量（15kg / m³）を上回っていることから発生量の観点だけからすると有効だと思われれます。収量と単価の動向を見極め選択することが重要です。

(2)「中温性品種を用いた冬季栽培と品質向上について」

～目的～

中温性を使う生産者が増加している。しかし、暖冬による春期の気温上昇により春期の発生器官の短縮や品質の低下が懸念される。そこで、冬季にハウス施設を利用することにより、発生期間の延長や収量の増加を図るとともに品質の向上を図る。

試験設定		きのこ研究所内ハウス、人工ほだ場(三重)		
試験区	11月21日	1月4日	2月22日	
AS区	ハウス搬入後 24h散水	24h散水	人工ほだ場へ移動 2h散水	
S区	人工ほだ場搬入	ハウスへ移動 24h散水	人工ほだ場へ移動 2h散水	
SW区	人工ほだ場搬入 24h散水	ハウスへ移動 24h散水	人工ほだ場 2h散水	
C区	人工ほだ場搬入			

～結果～

1年次ほだ木の結果

ほだ起こしをハウス内に行ったAS試験区では、他の試験区と比較して全ての品種で12月の発生量が多くなった。

全ての品種で対照区(C区)の生産量が最も少なかった。

ハウスを使用した3試験区では、ハウスから搬出したあとで4月上旬に発生のピークが見られた。

ゆう次郎の対照区では、3月中旬の1日で全体収量の約75%となる約7kg/m³の発生があった。

24時間散水後、発生が起こすなるにつれ菌さんに亀裂の生じた個体の割合が増加した。

2時間散水後の発生では、発生初期から菌さんに亀裂の生じた個体の割合が多く見られた。

1才ほだ木のデータのみであるが、それによると冬季にハウス施設を利用することにより、冬季の発生量を増加させることが出来た。1才ほだ木では発生量が増加したが、2年目以降にどのように影響するか調査する必要がある。移動時期の検討作業の省力化を検討する必要がある。

－11月下旬～4月下旬までの1年目の発生重量－

単位：kg / m³

品 種	AS区	S区	SW区	C区
290	12.52	13.48	9.74	6.62
ゆう次郎	15.69	14.11	15.08	9.38
115 (中温性ではない。)	3.93	3.32	3.13	2.24

～普及指導員から～

ハウスを活用することにより冬季の収量が増加することが示唆されており。

ただし、データは1年目のみであり、今後の全体の推移を見守っていく必要があります。また、ハウス活用は、ほだ場への移動及びハウス設置コストが増えるため、総合的に判断する必要があります。

4月下旬に東部地区品評会を開催します。

【ブランド力強化のためにも品評会の準備もよろしくお願いします。】

－椎茸のことなら何でもご相談ください ご相談窓口－

大分県東部振興局生産流通部
野菜・椎茸班 担当 栗林(国東市エリア)
河野(別府市・杵築市・日出町エリア)
0978-72-1141 FAX0978-72-1242